

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-215954

(43) 公開日 平成4年(1992)8月6日

(51) Int. Cl. ³	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/25	A	6916-3E		
33/34		6916-3E		

審査請求 未請求 請求項の数27(全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平3-28735
(22) 出願日	平成3年(1991)2月22日
(31) 優先権主張番号	4 8 3 9 1 6
(32) 優先日	1990年2月22日
(33) 優先権主張国	米国 (U S)

(71) 出願人 591018844
 オスカー・メイヤー・フツツ・コーポレーション
 OSCAR MAYER FOODS CORPORATION
 アメリカ合衆国ウイスコンシン州53707.
 マジソン、メイヤー・アベニュー 910

(72) 発明者 トッド・ステイヴン・マーノチャ
 アメリカ合衆国ウイスコンシン州53590.
 サン・ブレイリー、リンカーン・ドライブ
 427

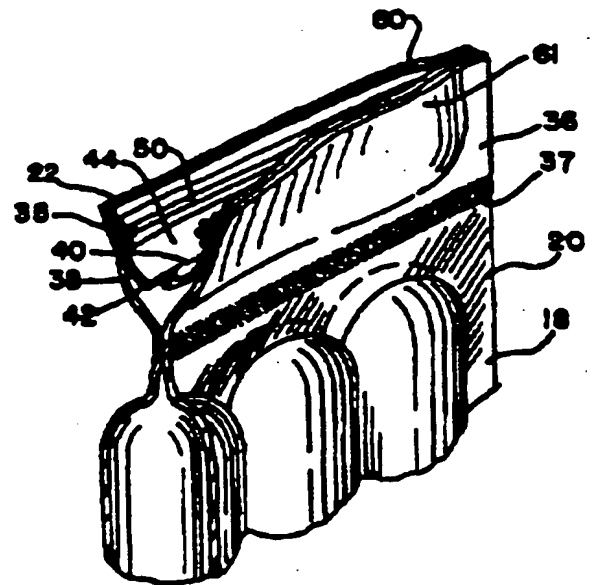
(74) 代理人 弁理士 湯浅 恭三 (外4名)

(54) 【発明の名称】 容易に開放可能な既開封明示型の再封鎖可能な包装体

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 再封鎖可能なシールと剥離可能なシールとから成る包装体に、この包装体が既に開放されたことがあるか否かを示す既開封明示手段を設けることを目的とする。

【構成】 可撓性の再封鎖可能な包装体10は包装体10の口部22付近に設けられる再封鎖可能なシール24と、再封鎖可能なシール24要素を連結する脆弱ウエブ38とを備えている。剥離可能なシール37が再封鎖可能なシール24と包装体10内の製品との間に設けられている。剥離可能なシール37を開けようとしたりあるいは製品に接近しようとする脆弱ウエブ38が破損してその試みを視覚的に表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 2つの対向する側壁の間に食品等を気密にシールするための再封鎖可能な可換性の包装体であって、既開封明示手段を有する包装体において、該包装体が、一体にシールされて口部を有する可換性の包装体を形成する可換性の2つの対向する包装体側壁と；該2つの対向する包装体側壁の向かい合う面に沿って設けられる再封鎖可能な連続的な可換性のファスナ手段であって、前記可換性の包装体の前記口部付近に設けられる対向するかみ合いファスナ要素を有する前記ファスナ手段と；前記再封鎖可能な連続的なファスナ手段の間で伸長する脆弱ウエブの形態の既開封明示手段と；食品に接近可能な位置に隣接すると共に前記再封鎖可能な連続的なファスナ手段の内側に設けられる剥離可能な気密シールと；を備えて成り、前記脆弱ウエブは前記再封鎖可能な連続的なファスナ手段の間に設けられる弱化線を有しており、また前記脆弱ウエブは前記対向するかみ合いファスナ要素が係合している時に前記再封鎖可能な連続的なファスナ手段の内側に位置し、更に前記脆弱ウエブは前記かみ合いファスナ要素が離合された時に分離して該包装体が以前に開封されたことを示すように構成されることを特徴とする包装体。

【請求項2】 請求項1の包装体において、前記2つの対向する包装体側壁は酸素不透過性の可換性の積層された包装体フィルムから形成され、包装体側壁の一方はサラン製の内側層を有し、包装体側壁の他方はエチレンビニルアセテート製の内側面層を有することを特徴とする包装体。

【請求項3】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブ及び再封鎖可能なファスナ手段は1部片型のファスナウエブ組立体として押し出し成形され、該ファスナウエブ組立体は所定の幅を有し、前記対向するかみ合いファスナ要素は前記ファスナウエブ組立体の両端部に設けられることを特徴とする包装体。

【請求項4】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブの弱化線は前記対向するかみ合いファスナ要素と略平行に延在する多数の孔の線から成ることを特徴とする包装体。

【請求項5】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブの弱化線は前記対向するかみ合いファスナ要素と略平行に配列される多数の孔の線から成り、前記脆弱ウエブは前記弱化線に沿って折り曲げられることを特徴とする包装体。

【請求項6】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブの伸びた状態における幅は前記対向するかみ合いファスナ要素と前記剥離可能な気密シールとの間の距離よりも小さいことを特徴とする包装体。

【請求項7】 請求項1の包装体において、前記対向するかみ合いファスナ要素は前記脆弱ウエブの共通面に配置されると共に該脆弱ウエブの両端部に設けられてファ

スナウエブ組立体を形成し、該ファスナウエブ組立体はその伸びた位置における幅を有し、該幅が前記対向するリブおよび溝からなるファスナ要素と前記剥離可能な気密シールとの間の距離よりも小さいことを特徴とする包装体。

【請求項8】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブはヒートシールにより前記対向する包装体側壁に接着されることを特徴とする包装体。

【請求項9】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブが接着手段により前記対向する包装体側壁に接着されることを特徴とする包装体。

【請求項10】 請求項1の包装体において、前記脆弱ウエブは前記弱化線に沿って折り曲げられて略V字形状になされ、これにより該脆弱ウエブは前記剥離可能なシールの上方で該包装体の中へ伸びていることを特徴とする包装体。

【請求項11】 請求項1の包装体において、該包装体が肉食品を収容することを特徴とする包装体。

【請求項12】 剥離可能なシールおよび再封鎖可能なシールを有する略対向する包装体パネルの間に製品を気密にシールするための既開封明示型の包装体であって、前記剥離可能なシールは前記略対向する包装体パネルを剥離可能なシール領域において一体に取り付け、該剥離可能なシールは指の力により開放可能であり、前記再封鎖可能なシールは更に前記略対向する包装体パネルを再封鎖可能なシール領域で一体に取り付け、前記再封鎖可能なシールは指の力で開放可能であると更に再封鎖可能であり、該包装体は、略対向する包装体パネルが再封鎖可能なシールにおいて分離されたことを示す既開封明示手段を備え、該既開封明示手段は前記再封鎖可能なシールと前記剥離可能なシールとの間の領域の略内側で前記略対向する包装体パネルの間に収容されており、前記既開封明示手段は前記略対向する包装体パネルの間で伸長するウエブを有しており、該ウエブは折り曲げられると共に該包装体が最初にシールされた時に前記再封鎖可能なシールの内側へ垂下しており、該ウエブは更にこのウエブの両端の間に設けられる切断手段を有しており、該ウエブは前記製品に対する接近を少なくとも部分的に制限し、前記ウエブは指の力が前記再封鎖可能なシールに加わると2つの別個のウエブ部分に分離して該包装体が開放されたことを示すように構成されたことを特徴とする包装体。

【請求項13】 請求項12の包装体において、前記略対向するパネルは酸素不透過性のフィルムを有し、該包装体は腐敗性の食品を包むのに用いられることを特徴とする包装体。

【請求項14】 請求項12の包装体において、前記再封鎖可能なシールは対向するかみ合いファスナ要素を有する再封鎖可能なシール部材を有し、該かみ合いファスナ要素は前記ウエブの両端部に設けられ、前記ウエブは

折り曲げられて前記かみ合いファスナ要素を互いに整合した関係に配列すると共に該ウェブの折り曲げ部分を面成し、前記切断手段は前記折り曲げ部分に配置されると共に弱化線を有しており、該弱化線が前記ウェブのかみ合いファスナ要素に略隣接しかつこれらと平行に配置されることを特徴とする包装体。

【請求項15】 請求項14の包装体において、前記かみ合いファスナ要素はかみ合うリブ及び溝要素を備えることを特徴とする包装体。

【請求項16】 請求項14の包装体において、前記ファスナ要素及び前記ウェブは1部片型のユニットであり、該ユニットは該包装体の出入り縁部付近において前記略対向する包装体パネルの間に取り付けられることを特徴とする包装体。

【請求項17】 請求項12の包装体において、前記ウェブおよび再封鎖可能なシールは1部片型のウェブ組立体として押し出し成形され、該ウェブ組立体は対向するかみ合いファスナ要素を有しており、該ファスナ要素は前記ウェブ組立体の共通面上でかつ該ウェブ組立体の両端部に配置されることを特徴とする包装体。

【請求項18】 請求項17の包装体において、前記ウェブ組立体は接着手段により前記略対向する包装体パネルに取り付けられることを特徴とする包装体。

【請求項19】 請求項17の包装体において、前記ウェブ組立体はヒートシールにより前記略対向する包装体パネルに取り付けられることを特徴とする包装体。

【請求項20】 請求項12の包装体において、該包装体が肉食品を収容することを特徴とする包装体。

【請求項21】 対向する2つの包装体側壁の間に製品を包囲するための可換性のプラスチック包装体であって、該包装体はこの包装体の3つの縁部に沿う永久シールにより面成され、該包装体の第4番目の縁部は前記製品に接近するための包装体口部を提供し、該包装体は前記対向する包装体側壁を該包装体の口部付近で一体に保持して該包装体の口部を閉止するための再封鎖可能なシールを有しており、該再封鎖可能なシールはかみ合いファスナ要素を有しており、該かみ合いファスナ要素は係合された状態で前記包装体口部に対する再封鎖可能なシールを提供し、該包装体は更に前記再封鎖可能なシールと前記製品との間の剥離可能なシール部分を有しており、該剥離可能なシール部分は該シール部分の中で前記製品付近に設けられる剥離可能な気密シールを有しており、該包装体は更に前記包装体側壁の間で伸長するウェブを有しており、前記かみ合いファスナ要素は共通面上でかつ前記ウェブの両端部に設けられ、前記ウェブは折り曲げられて前記再封鎖可能なシールの内側かつ前記剥離可能な気密シールの上方に延在するウェブ折り曲げ部を面成し、該ウェブ折り曲げ部はこのウェブ折り曲げ部の略中央に配置される脆弱領域を有しており、前記ウェブは前記再封鎖可能なシールと前記剥離可能なシールと

の間に配置される既開封明示バリアを提供し、前記剥離可能なシール及び前記製品に対する接近は前記ウェブが前記脆弱領域に沿って破断された時に行われるようになされ、これにより該包装体が以前に開放されたことを示すように構成されたことを特徴とする包装体。

【請求項22】 請求項21の包装体において、前記ウェブおよび前記かみ合いファスナ要素はヒートシールにより前記2つの対向する包装体パネルに取り付けられる一体の1部片型組立体であることを特徴とする包装体。

【請求項23】 請求項21の包装体において、前記かみ合いファスナ要素は1部片型の組立体として前記ウェブと一体に形成され、該1部片型の組立体が接着手段により前記包装体出入り縁部付近において前記2つの対向するパネルに取り付けられることを特徴とする包装体。

【請求項24】 請求項21の包装体において、伸長した状態における前記ウェブの幅は前記かみ合いファスナ要素と前記剥離可能なシールとの間の距離よりも小さいことを特徴とする包装体。

【請求項25】 請求項21の包装体において、該包装体に包まれる前記製品が肉製品であることを特徴とする包装体。

【請求項26】 対向する2つの包装体側壁の間に食用肉製品を気密にシールするための再封鎖可能な可換性の包装体において、該包装体が以前に開放されたことを示す既開封明示手段を有しており、包装体は、3つの側部においてシールされかつ包装体口部をもつ第4の側部を有する可換性の包装体を面成するために互いにシールされた酸素不透過性フィルム製の相対向する2つの可換性の包装体側壁と、前記相対向する包装体側壁の向かい合う面に沿って配置された再封鎖可能な包装体シールを提供する再封鎖可能な連続的なファスナ手段であって、共通面に沿って配置される対向するかみ合いファスナ要素と、これらかみ合いファスナ要素の間で伸長するファスナーウェブ組立体の両端部とを有する前記連続的なファスナ手段と、を備えて成り、前記ファスナーウェブ組立体のウェブは前記かみ合いファスナ要素の間に設けられる脆弱部を有しており、該ウェブは前記かみ合いファスナ要素が離合したときに前記脆弱部において分離して該包装体が以前に開放されたことを示すようになされ、前記ウェブの脆弱部は前記かみ合いファスナ要素の間に配置される弱化線を有しており、該弱化線は前記かみ合いファスナ要素に対して略平行になされ、前記ウェブは更に前記かみ合いファスナ要素が係合したときに折れ曲がるようになされ、前記ファスナーウェブ組立体は伸長した状態における所定の幅を有しており、該所定の幅が前記再封鎖可能なシールと前記剥離可能なシールとの間の距離よりも小さくなくされており、該包装体は更に前記食用肉製品付近でかつ前記かみ合いファスナ要素と前記食用肉製品との間に設けられる剥離可能な気密シールを有していることを特徴とする包装体。

5

【請求項27】 請求項26の包装体において、前記脆弱ウェブ及び再封鎖可能なファスナ手段が1部片型のファスナーウェブ組立体として押し出し成形されることを特徴とする包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、概略的には、包装体の略対向する側部パネルの間に消耗品を気密にシールするための再閉鎖可能な包装体に関し、より詳細には、剥離可能なシールを有する食品あるいはこれに類する物用の再閉鎖可能な包装体であって、該シールが、包装体の品物出入り縁部を一体に固定すると共に、包装体が以前に開放されたことを示す既開封明示特性を有する形式の再閉鎖可能な包装体に関する。

【0002】

【従来技術およびその問題点】内側の剥離可能な気密シールと外側のファスナシールとを有する可換性の包装体が現在知られており、これらの包装体は、ウインナ、ベーコン、薄切りのランチョンミート、チョップ、チーズあるいはこれらに類似する種々の食品を包装するために用いられている。そのような包装体は、一般には2枚のフィルム材料製のシートの間で食品を真空シールして気密シール（例えばヒートシール）された略矩形状の包装体を形成するために用いられており、そのような包装体は、3つの側部において単一の再閉鎖不能なシールを有すると共に、第4番目の側部に出し入れ口を有し、該出し入れ口には気密な再閉鎖不能なシールおよび再閉鎖可能なシールの両方が設けられている。

【0003】上記出し入れ口が再閉鎖可能な外側のファスナシール及び再閉鎖不能な剥離可能な内側のシールを備えている場合には、一旦開放したという外観上の証拠を残すことなく、包装体を開放した後にこれを再び閉止することができることが判明している。従って、一旦開放しその後何ら内容物を取り除くことなく再閉鎖された包装体は、気密で剥離可能な内側シールを有する包装体と比べて何ら選色の無い外観を呈することになる。以前に既に開放された包装体を購入しその後この包装体を開放した消費者は、特に真空包装された製品の場合には、勿論その気密シールが破れていることを認識し得る。ガス洗浄された包装体が以前に開放されていたことを認識することは、恐らくより困難であろう。しかしながら、消費者にとっては、店において（すなわち購入前に）、その包装体が以前に開放されていたことを容易に認識し得ることが望ましい。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の原理に従って構成された包装体は既開封明示型であり、日常的な観察により消費者はこの包装体が既に開放されていることを認識し得る。剥離可能な気密シールによって、包装体は気密でありこの包装体の中に水、ジュース、油等を含む液

6

体製品の内容物を適宜保有することができる。包装体は第1の再閉鎖可能なシールを有しており、該シールは包装体の内容物を取り出すために繰り返し開放および閉止可能である。相互にかみ合うリブおよび溝のファスナエレメントから構成されるファスナシールが好ましい再閉鎖可能なシール手段である。

【0005】また、包装体は第2の気密な内側シールを有しており、該内側シールは容易に開放可能なすなわち剥離可能なシールである。この剥離可能なシールは再閉鎖可能なシールに対して略平行であり、また再閉鎖可能なシールを開放するために用いられる力に連続する指の引きはがし力により開放される。剥離可能なシールは可換性の包装体の中に真空、加圧及び/又は調整された気体環境を維持することができる。剥離可能なシールは2枚のプラスチックフィルムの間に面対面のシールを達成することにより形成され、このシールはいずれのプラスチックフィルムをも破損することなくすなわち引き裂くことなく分離できる強度を有する。

【0006】本発明の包装体は更に既開封明示特徴部を有しており、この特徴部は製品を取り出すために引き裂がさなければならない再封止可能なシールと気密な剥離可能なシールとの間の包装体の首部領域に設けられる。既開封明示特徴部が引きはがされることにより、再封止可能なシールと内側の剥離可能なシールを介して後の内容物に対する侵入が行われたであろうという視覚的な証拠が提示される。

【0007】本発明はいたずらによる開封を容易に見分けることを可能にする改善された再封鎖可能な包装体に関する。

【0008】本発明の原理を組み入れた再封鎖可能な包装体においては、包装体のいたずらによる開封すなわち既開封の証拠は可換性のウェブにより達成され、該ウェブは再封鎖可能なシールのリブ及び溝のファスナエレメントの間に延在すると共にこのウェブは剥離可能なシールに到達する際に破れるようになされている。

【0009】本発明の1つの原理的な観点において、再封鎖可能な包装体はこの包装体の出入り縁部付近に設けられた第1の再封鎖可能なシール組立体を有していると共に再封鎖可能なシールの下側でかつ包装体の中に収容された製品の近くに設けられた第2の剥離可能な気密シールを有している。再封鎖可能なシール組立体は2つの対向する側壁の間に伸びるウェブを有しており、該ウェブは脆弱な領域を有している。再封鎖可能なシールが第2の剥離可能な気密シールに接近してこれを開放可能な程度の幅まで開放されると、ウェブは部分的に裂けるかあるいは上記脆弱領域において分離して2つの別個のウェブ部分となり、これにより既開放を示す。

【0010】従って、本発明の一般的な目的は、包装体に追加の空間を加えることなく、第1の再封鎖可能なシール及び第2の剥離可能なシールを有する改善された既

開封明示型の包装体を提供することである。

【0011】本発明の他の目的は、食品用の再封鎖可能な包装体であって、この包装体の開口付近に設けられた再封鎖可能なシールと、食品付近に設けられた剥離可能な気密シールと、再封鎖可能なシールの下側かつ剥離可能なシールの上側に延在すると共に剥離可能なシールの既開封を明示する既開封明示部片とを有する形式の包装体を提供することである。

【0012】本発明の更に別の目的は、第2の剥離可能な気密シールと組み合わされた一体型の既開封明示特徴部を有する第1の再封鎖可能なシールを備えた改善された製品包装体を、その製造コストを増加することなくあるいは最小のコスト増加により、提供することである。

【0013】本発明の更に他の目的は、可換性の食品包装体を提供することであり、該包装体はこの食品包装体の出入り口縁部に隣接して互いに平行な関係で設けられる再封鎖可能なシール及び剥離可能な気密シールを有しており、また該包装体は上記再封鎖可能なシールに隣接する包装体の2つの対向する側壁の間に伸びる脆弱なウエブを有しており、該脆弱なウエブは中央の折り曲げ線を有しており、これによりウエブが折り曲げられると該ウエブは再封鎖可能なシールの下側に延在するように構成されている。

【0014】本発明の更に別の目的は、再封鎖可能な包装体に用いられる再封鎖可能な一体型のファスナーウエブ組立体を提供することであり、この組立体においては、対向するリブおよび溝のファスナエレメントが脆弱なウエブの共通面に沿って配置され、ウエブは包装体の対向する2つの側壁に固定されると共に包装体に対する既開封明示特徴部を提供する。

【0015】本発明の上記及び他の特徴および目的は以下の実施例の説明からより明らかになるであろう。

【0016】

【実施例】図1は本発明の原理に従って構成された既開封明示型の再封鎖可能な包装体10の第1の実施例を示している。本発明の包装体10は、図においてはワインナ12として示された食品を封止するのに特に適しており、食品は可換性のフィルム材料製の2つのシートすなわちパネル14、16の間に設けられている。本発明の包装体を形成する包装体のパネル14、16は、プラスチックフィルム、多層積層体すなわち共押し出し成形体、熱成形材料等を含む種々の材料から形成することができる。本発明の包装体の組立てに好ましいプラスチックフィルムは、空気、酸素あるいは湿気に対して不透過性のものである。包装体10が積層構造体から形成される場合には、空気、酸素あるいは湿気に対して不透過性の薄い内側層を、積層体が袋壁として機能し得るように十分な剛性を有する外側層と組み合わせて用いることが望ましい。図示および説明の都合上、各々の包装体のパネルを単一のヒートシール可能な層として示す。実際に

は、各々の袋のパネルは2あるいはそれ以上の層から成る積層体であり、該層は、製品に対する十分な保護（例えば酸素及び湿気バリア）を提供すると共に、それぞれの内側面に剥離可能な気密シールを形成することができる。当業者には周知のように、ビニリデンクロライドービニルクロライド共重合体である「サラン（Saran）」をエチレンビニルアセテートの表面と接触させると上記の如き接合を形成することができる。

【0017】基本包装体10は、2つのフィルムシートを対向かつ当接する関係に位置し、これらフィルムシート14、16を包装体10の周囲すなわち周縁部20に沿ってその3辺を剥離不能なシール18で固定することにより形成される。包装体10の周縁部20をシールすると、包装体の口部すなわち出入り口領域22が面成される。周縁部のシールは、ヒートシールあるいは接着剤シール等の当業者に周知の工程により行うことができる。

【0018】図2及び図3に最も良く示すように、包装体はまた第1の再封止可能なシール24を有しており、このシールはリブ及び溝のファスナアセンブリ等の相互にかみ合う通常のファスナアセンブリ26として図示されている。相互にかみ合うファスナアセンブリ26は所定長さの成形リブ要素ストリップ28を有しており、該ストリップは内側の包装体側壁32の面30上の包装体口部22に隣接しかつこれに略平行に設けられている。リブ50は、その対向する端形状の溝要素ストリップ29とかみ合ってこれらにより保持されて固定されるに十分な距離だけ、リブ要素ストリップ28から外方に伸びている。別図の成形された溝要素ストリップ29は対向する包装体側壁33の対向面31上のリブ要素ストリップ28に向かい合って配列されている。溝要素ストリップ29は2つの外方に伸びる壁52を有しており、該壁はこれら壁の間に通路すなわち溝54を面成している。溝54は、対向するかみ合いファスナストリップ28、29が一端に押さえ付けられた時に、リブ50にしっかりと係合するに十分な幅を有している。かみ合いファスナ要素ストリップ28、29は、包装体の対向する側壁32、33上に2つの対向する引っ張りフランジ60、61を提供するに十分な距離だけ、包装体の口部22の下方に設けられている。かみ合いファスナ要素ストリップ28、29の伸長形状は、包装体10を開く時に引っ張りフランジ60、61を把持する助けをする。再封鎖可能なシール24及びかみ合いファスナアセンブリ26の両方共、ここに開示する特徴および形状の他の種々のいかなる形態を取ることもできる。

【0019】再封鎖可能なシール24の下側には剥離可能なシール領域36が設けられており、該シール領域は食品12に隣接すると共に再封鎖可能なシール24と略平行に設けられている。剥離可能なシール領域36は、ヒートシール棒（図示せず）で包装体の対向する側壁3

2、33を押圧することにより形成可能であり、これにより、包装体の前方パネル14と包装体の後方パネル16との間に指の力を加えることにより開放可能な剥離可能なシール37が形成される。また、剥離可能なシール領域36は接着剤を塗布して包装体のパネルを一緒に固定することにより形成することもできる。

【0020】本発明の重要な観点において、包装体フィルム10の別個の脆弱なウェブ38が設けられ、このウェブはかみ合いファスナ要素28、29と一緒に連結してファスナーウェブアセンブリ39を形成する。脆弱ウェブ38は好ましい所定の最大伸長幅Wを有し、この幅は剥離可能なシール37の頂部とかみ合いファスナ要素28、29との間の距離Lよりも小さく、これによりウェブは剥離可能なシールに近付くかあるいはこれを開放する前に破断する。しかしながら、ウェブの最大伸長幅Wを距離Lよりも幾分長くかつこのLの2倍を越さない寸法としても本発明の利点を得られることは理解されよう。

【0021】ウェブ38にはこのウェブの脆弱部44の形態の切断手段が設けられ、該切断手段は弱化線40として図示されており、該線は、刻み目線、穴空き線等の形態とすることができ、この線はウェブ38の略中央部42においてかみ合いファスナ要素28、29に略平行にして設けられる。弱化線40は脆弱ウェブ38の長さにならって伸長し、ウェブ38が分離された時に2つのウェブ部分46、47を画成する。弱化線40をウェブ38の中心から幾分外して位置させ、これにより包装体10が既に開放されたことを外部からより容易に認識可能とすることができる。包装体の壁を弱化線40に沿ってウェブ38を破るに十分なだけ引っ張って離すと、完全に開放した場合でも分離されたウェブ部分46、47が包装体の側壁に取り付いたままであるため、包装体10を開いた時に廃棄すべきくずが生じない。

【0022】脆弱ウェブの弱化線40はまたウェブの中央部42の中で伸長する折り畳み線の役割も果たし、これにより、包装体10が封止されている時には、ウェブ38が弱化線に沿って折り畳まれて脆弱部44（従ってウェブ自身）が再封鎖可能なシール24の下方に垂れ下がる。脆弱ウェブ38はその全体が剥離可能なシール36と再封鎖可能なシール24との間に位置するため、本発明の既開封明示特徴部は包装体10に何ら追加の空間を必要とせず、これは特に該特徴部が再封鎖可能なシール24の完全に内側に位置しかつ該シールの外方に延在しないことによることは理解されよう。

【0023】図1乃至図4に示す包装体の実施例においては、ウェブ38は別個のフィルム部材49として図示され、該フィルム部材は包装体10の口部22において包装体の対向する側壁32、33の向き合う面30、31に接着されている。次に再封鎖可能なかみ合いファスナ要素ストリップ28、29がウェブ38の共通面48

の対向端部51、53に接着される。ウェブ38及び再封鎖可能なシールかみ合いファスナ要素28、29の一体の接合は、ヒートシールあるいは接着剤等の適宜な手段により行うことができる。そのような構造においては、脆弱ウェブ38は、最小の包装機械及び/又は材料の変更により、再封鎖可能なシールを有する包装体に容易に付与することができる。

【0024】本発明の原理を組み込んだ再封鎖可能で、既開封明示型の食品包装体70の他の実施例が図5及び図6に示されている。再封鎖可能なシールかみ合いファスナ要素72、73及び剥離可能なシール74等のこの第2の実施例の基本的な構造は、上記第1の実施例に関して説明したものと同様である。しかしながら、この実施例においては、包装体70は1部片型の一体のファスナーウェブ組立体76を用いており、該組立体においては、リップおよび溝要素として図示された対向するかみ合いファスナ要素72、73が脆弱ウェブ78と一体に形成されている。一般に、かみ合いファスナ要素72、73はその押し出しあるいは他の製造工程においてウェブ78上に形成される。ファスナーウェブ組立体76には、ウェブ78の脆弱部80の形態であり弱化線82として図示された分割手段が設けられており、該弱化線はウェブ78の略中央部84に設けられると共にかみ合いファスナ要素72、73に略平行に伸長する刻み目線、穴空き線等の形態とすることができる。

【0025】包装体10を開く時には、使用者は包装体10の頂部の2つの引っ張りフランジ60、61を把持して指による引っ張り分離力を与える。再封鎖可能なかみ合いファスナ要素28、29は分離して脆弱ウェブ38を上方に引っ張り、該脆弱ウェブをその下方に垂下する略V字形の形状から伸長した形状にする（図3および図6参照）。指の力を更に加えるとウェブ38がその弱化線40に沿って分離し、これにより剥離可能なシール36に接近することが可能となり、使用者が更に指の力を加えることによりこの剥離可能なシールを開放することができる。従って、包装体10の内部に接近する唯一の方法は弱化線40を破断することである。

【0026】脆弱ウェブ38が包装体10に対する既開封明示装置を提供することは理解されよう。開封されていない状態においては脆弱ウェブ38は破断されておらず、該ウェブは再封鎖可能なシール24の下方すなわち内側に位置している。再封鎖可能なシール24が剥離可能なシール37に接近可能な程度まで開封されると、包装体の内部に対する接近が行われたかあるいは接近が行われようとしたことが明らかとなる。従って、包装体10あるいは剥離可能なシール37に対する開封が行われたか否かの検査を容易に行うことができる。開入者により剥離可能なシール36が開封された後に、かみ合いファスナ要素28、29を再び閉じることによって包装体を閉じて包まれた製品12を貯蔵する。ウェブ部分4

11

6、47を内側向きに配向することにより、これらウェブ部分がファスナ要素28、29の閉止を阻害する可能性を減少している。

【0027】本発明の包装体は種々の方法により形成することができる。包装体10は、2つの別個の包装体パネル14、16を用い、最初にこれらパネルの3辺を適宜にシールして包装体10の外側限界を画成することにより形成することができ、また包装体10は、包装体フィルム連続的なシートを用い、該シートを折り曲げて包装体の底縁部を画成し、その後包装体の側部を所定の

間隔で適宜シールして個々の包装体を画成することにより形成することができる。

【0028】基本的な包装体構造が形成されかつその対向する側壁32、33が画成されると、包装体の口部構造が完成される。一般には、次に多部品ファスナウェブ組立体35あるいは1部片型のウェブ組立体76が包装体の口部の向かい合う面30、31に取り付けられ、この取り付けはヒートシールあるいは接着剤等により通常のいかなる態様によっても行うことができる。取り付けの前に、ウェブに刻み目あるいは多くの孔を形成して

弱化線40を画成し、ウェブを折り畳んで脆弱なウェブ38の中央部42を再封止可能なシール24の下方に垂下させる。

【0029】包装体の口部を完成する前あるいは後に、包装体10に製品12を充填することができる。例えば、包装体10の口部22を介してこの包装体を充填したい場合には、剥離可能なシール37は包装体に製品12を充填した後に閉鎖され、その後ファスナーウェブ組立体35が上方の対向側壁32、33に取り付けられる。他の場合においては、包装体10は、この包装体の口部の形成を終えた後に、包装体の開放側部あるいは開

12

放底部を介して所定の製品12で充填される。この場合、ファスナーウェブ組立体35は包装体の充填の前に包装体の対向する側壁32、33に取り付けられることは明らかである。

【0030】本発明の特定の実施例を図示しかつ説明したが、本発明の技術的範囲を逸脱することなくこれら実施例の変形および変更を行うことができることは、当業者には明らかであろう。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明の原理に基づき構成された既開封明示部片を備えた包装体の頂部の斜視図であり、例示として真空包装されたウイナを保有する包装体を示す。

【図2】図1の線2-2に沿う断面図である。

【図3】開放されている再封鎖可能なシールと部分的に分離された既開封明示ウェブを部分的に破断して示す斜視図である。

【図4】図3の包装体の端部断面図である。

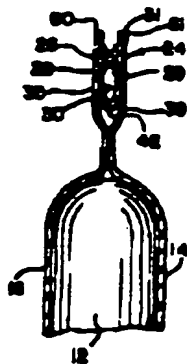
【図5】他の実施例の既開封明示部片の平面図である。

20 【図6】図5に示す既開封明示部片の実施例を備えた包装体の頂部の断面図である。

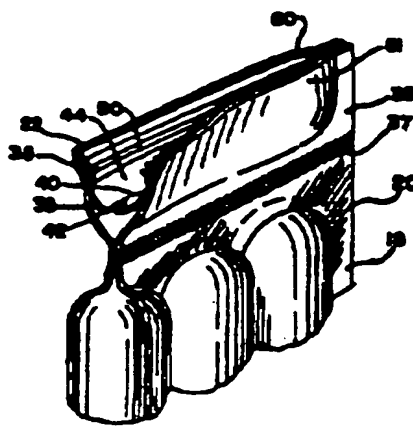
【符号の説明】

10	包装体	12	製品
14、16	パネル	22	口部
24	再封鎖可能なシール	26	かみ合いファスナ組立体
28、29	かみ合いファスナ要素	37	剥離可能なシール
32、33	側壁	40	弱化線
38	脆弱ウェブ	48	共通面
44	脆弱部		
50、53	対向端部		

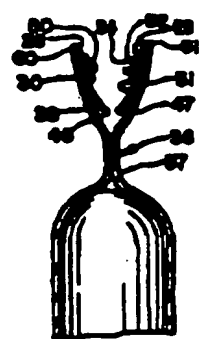
【図2】



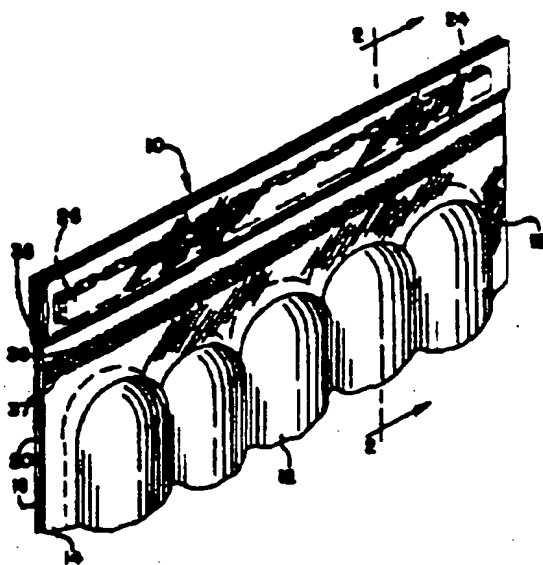
【図3】



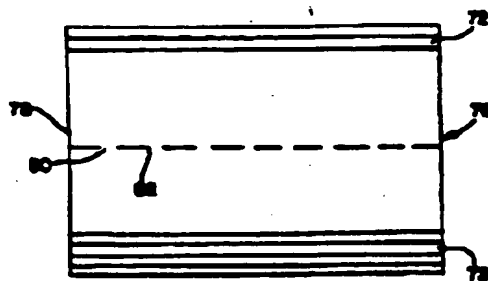
【図4】



【図1】



【図5】



【図6】

